

今 野 伸 樹（平成23年卒）

題 名：Pain Response Rates After Conventional Radiation Therapy for Bone Metastases Assessed Using International Consensus Pain Response Endpoints: A Systematic Review and Meta-Analysis of Initial Radiation Therapy and Reirradiation
(骨転移に対する放射線治療後の疼痛奏効割合：国際的な疼痛奏効評価基準を用いた初回照射および再照射に関するシステマティックレビューとメタアナリシス)

発表誌：International journal of radiation oncology, biology, physics・2023年・116(4), (p739-746)

..... 《 論 文 内 容 要 旨 》

有痛性の骨転移に対する放射線治療の初回照射における疼痛奏効割合は、評価可能患者で72～75%、Intent-to-treat 解析で61～62%、再照射では評価可能患者で68%と報告されているが、研究間で疼痛奏効の評価基準が異なっていた。国際的な疼痛奏効評価基準（ICPRE）が2002年に規定され、臨床試験で広く用いられるようになったが、ICPRE を用いた奏効割合に関する包括的な報告はない。本研究では、初回照射および再照射における疼痛奏効割合について、ICPRE を用いてシステマティックレビューとメタアナリシスを実施した。

2002～2021年に発表された文献を PubMed および Scopus で検索し、ICPRE を用いた前向き研究を対象とした。6470件の文献のうち、初回照射に関する32件、再照射に関する3件が解析対象となった。初回照射の全奏効割合は評価可能例（n=4775）で60.4%（95%信頼区間 [CI]：55.2-65.4）、Intent-to-treat 解析（n=6775）で45.4%（95% CI：38.7-52.4）。再照射では評価可能例（n=733）で70.8%（95% CI：15.7-96.9）、Intent-to-treat解析で62.2%（95% CI：5.3-98.0）であった。初回照射のサブグループ解析（n=1085）ではランダム化試験と非ランダム化試験間で有意差は認められなかった。

初回照射の奏効割合は従来報告より低く、再照射に関しては信頼区間が広くさらなる研究が必要と考えられる。